

●「赤心」縁がん

Dream

五代塾

GodaiJuku

Sinbun

(新聞)

第12号

発行: Dream 五代塾

吹田市千里山西 5-14-17

発行責任者: 理事長 川口 建

2023新春
インタビュー

田中光敏映画監督に聞く

てんがらもん

五代友厚と映画「天外者」と三浦春馬と

今日はお忙しい中、貴重なお時間を頂きありがとうございます。

映画「天外者」は、2020年12月11日公開し大ヒットを収めました。現在公開から2年が経ちましたが、今も三浦春馬さんファンを中心にお客様が続き、定期的に全国特別上映がされています。また、「この映画をきっかけに五代友厚を勉強したい」という方々も多く、Dream 五代塾へも沢山の方が入会して頂き、「一緒に勉強をさせて頂いています。私たちDream 五代塾は、五代友厚の事績顕彰と同時に多くの方に五代の志を知つてもらい、人生の羅針盤としていただけるよう活動を進めています。映画「天外者」は、その推進活動の上でも強力なバックアップを受けた映画となり大変感謝しています。

今日は映画製作にあたり、「五代友厚」という人物をどう描くか、そしてそれらを表現していくたまくキャスティングのお話をどうぞお聞かせ頂きたいと思います。

よろしくお願いいたします。

(聞き手: 川口由美子)

— 五代友厚を題材にする映画制作依頼に対し、どのように受け止められ、また、映画として描きやすい人物でしたか —

(田中監督) 映画をつくる時にマ

スコミの方にも沢山インタビューを受けて、その時にも伝えた事なんですが、基本的には5ヶ月位かな、作るか作らないかっていうのは悩みました。それはどうしてかというと、朝の連続ドラマで、ティーン君がやった朝

— 以前に発足したプロジェクトでは、脚本を一般応募した経緯がありますが、その脚本の内容などはご存知でしたでしょうか —

(田中監督) 一切知らないくて、最初は大きな予算の話をされていました。ただ僕はその大きな予算の話よりも、あの五代友厚という人は本当に僕らがドラマとして描くだけの人物なのか、それとお客様に入るだけの強い強いストーリーをもつた物語になつていくのか、つていうことが、僕の中では最大のテーマでしたね。

— お受けしかどうかっていうことに関しては、6ヶ月後に条件として脚本家の小松江里子さんと一緒にやらせて頂こうと思うんですけど作るか作らないかっていうのは悩みました。

お受けするかどうかっていうことに関しては、6ヶ月後に条件として脚本家の小松江里子さんと一緒にやらせて頂こうと思うんですけど作るか作らないかっていうのは悩みました。

うとされた時に五代友厚をこういった人物像で描きたいというイメージが、ある程度出来上がっていたという

— お受けしようとですね —



(田中監督) 映画製作を受けるつていうことは、僕の中でこういう風にしていきたいと思いつつあったので、とにかく色々な伝記本や小説など読んでいると、幕末・維新の五代友厚が生きた時代は、日本が若い志士たちによって動かされた、そして若い人たちによって国

— 五代友厚を色々調べられた時に、五代友厚という人の生き方など、どういう人物として捉えられましたでしょうか —



だから、坂本龍馬であったり、伊藤博文であったり、岩崎弥太郎であったり、グラバーであったりとか、そういう歴史上の若き人たちが、個人としては五代友厚と会っていたという史実を知つて、この若い人たちが何か歴史上で会つて、国を動かすまでの物語にならないかなつ、というのが漠然とした僕の中でのアイデアがありました。

— 五代友厚は魅力的な人物であると感じられたのですね。その上で、映画では何を伝えようと考えられたのか、もう少し具体的に聞かせて頂けませんでしょうか —

(田中監督) 今の時代っていうのは、主演の春馬君にもよく言つたことですが、「今だけ、金だけ、自分だけ」、要するに田先のことだけ。そしてお金のことだけ考えて、利他の心でなく、自分だけ自分中心に物事を考える、そういう時代の指導者は多い。

志士たちは、自分のことよりも他人のことつまり、今のことよりも未来のこと、もっと先の日本のこと、お金をよりももっと大切な価値観をもつて世の中を動かそうという風に感じたんです。

そういう若者たちがいた時代なんじゃないか。そういう意味で言うと、今の時代だからこそこの五代友厚の物語というのは全くその正反対の生き様をもつた若者たちが登場することによって、観ている人たちはきっと心を動かしてくれるだろうっていうのが僕たちのテーマでした。

だからそれを春馬君に伝え、役者たちにも伝えて共感して頂いて、その中でキャラクターを固めていったというところはあります。

— 田中監督は脚本家小松江里子さんとのお

仕事が多いですが、ストーリー作りやセリフの内容について、どの程度キャラッチボールされ、完成させていくんですか —

(田中監督) いつもやっていますけど、本をつくるには1年半から2年かかります。再考、再考して、書き直し、書き直し、書き直して、そして今の時代とどういう風にリンクして、今の時代にどう物を申しながら物語を進めしていくかっていうことは、小松さんと何度もキャラッチボールをしながら、作つていつたところはあります。

また、様々な人たちにもアイデアを頂いたし、その中では三浦春馬君演じる五代友厚っていう人が、どうやつたら今のこの世の中に登場させられるかがポイントになつてきましたね。

— 映画のタイトル「天外者」(てんがらむん)という言葉は鹿児島にはあったと思うんですけど、どの辺でイメージが決まつたんですか —

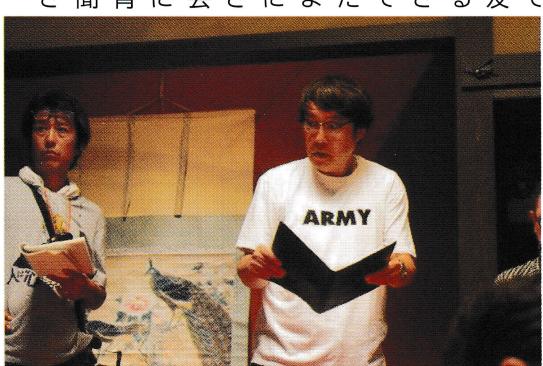
(田中監督)

本を書いてる途中で「天外者」で行こう、行きたいと。

ただこのタイトルを「提案させていただいたときは贊否の意見を頂きました。ただ僕と

三浦春馬さんは、これから出演者三浦春馬も始め、みんなは「天外者」いいじゃないですか、ってい

う思いが強く、だから、本当にこのタイトルが外されたら僕はほんとの作品を降りるつもりでした。もう自分の作品じゃないなどいう、だから、それぐらい思いはあつたし、音もよかつたし、この「天外者」っていう、言葉の意味もとてもいい意味で、春馬君が僕たちに教えてくれたことでもあるけれども、これは五代友厚が「天外者」だけじゃなくて、世の中に入っているみんなが命を授かった時点で「天外者」っていうことですよね、っていう彼のその言葉も含めて大切にというか、このタイトルをち



— それで、五代友厚を演じる三浦春馬さんは、この出会いについて、お伺いします。最初に三浦春馬さんとの出会い、主役に選ばれた背景などお聞かせください —

(田中監督) 五代友厚は歴史上非常にもてた男性だと聞いていて、男前で美しくてそれでいて心の綺麗な、そういう人をキャスティングしたいな、というのは思つていて、その時、何年か前に三浦春馬君が大河ドラマ「おんな城主直虎」に出ていたとき、三浦春馬って役者は、こんなに爽やかに、それでいてかつて、こんな芝居をする人なんだ。いつかこの人と一緒に仕事をしてみたいなあって思つていたところがあつて、それでこの「天外者」、この作品に三浦春馬さんを何とかオファーして、この作品に三浦春馬さんを何とかオファーして、僕の中には思いました。

— 映画撮影を通じ、三浦春馬さんの魅力を幾つか紹介して頂けますか —

(田中監督)

—

（田中監督） キャスティングの最初に主役を三浦春馬に決めオファーしました。そして彼はオッケーをしてくれました。その後クラ

ンクインするんですが、実はそのクラシックインをすると言つたその年にはクラシックインできなかつたんですね。

—

—

2

してと言つて、やっぱりその人その役者を好きになりますよね。そういう意味では彼のことを好きになつたし、信頼できることもできたり、そういうことが三浦春馬つていう役者の凄さだから、そういう意味では、彼はもう現場に来る前に準備は万全だつたし、心の準備も含めて、だからこそ現場ではのびのびと芝居をやつていたし、現場では自信を持つていたつていうか、僕はそう感じましたけどね。

(次に續く)

五代の生涯の偉業 「弘成館」鉱山業（三）

Dream 五代塾顧問 八木孝昌

半田銀山の銀精製過程で生じる「洗鉱水」が田地の「稻苗に害ある」という懸念が地元農民から寄せられて、半田銀山は「坑水壺瓶」と「坑水より出る沈殿物壺塊」を工部省鉱山寮に送つて分析を依頼します。一八七六年六月二十一日付の鉱山師長ゼー・ジー・エッチ・コットフレー名の「分析書」（『五代友厚伝記資料』第三巻、史料八三、原文漢字カタカナ）が、鉱山寮から五代友厚宛に六月二十三日付で「相達」されます。「分析書」には、「此坑水は其浮動含有物を沈定して全く清浄ならしむる上は、植物に何等の妨害をも及すことなし」とありました。ゴットフレーはドイツ生まれ、帰化英國人の地質学者で、お雇い外国人でした。この分析書をもとにして、同年七月八日付で半田銀山鉱長吉田市十郎と北半田村・南半田村・谷地村・塚野目村・伊達崎村の各惣代等との間で「締約書」（『五代友厚伝記資料』第三巻、史料八四）が交わされました。まず前文

Jのあとに十一条の約定が置かれていますが、主なものは以下のようです。

第一条では、北半田村の「溪間湧出ノ全水」を農業用「工業用八に分割する」とが約されます。

第六条では、昨八年に築造した三ヶ所の溜井に加えて、鉱山機械所下の渓間に「四ヶ所の溜井を新築し、鉱山に於て浚渫（浚渫）の責に任ず」ことが規定されます。

第八条では、浚渫した「泥砂は降雨の節と雖ども用水塘へ流れ入ひやる様」管理することが規定されます。

そして第九条では、「洪水にて溜井の土手崩潰しこれが為に村方の損害となりたときは御本県の御見分」を申請した上で鉱山が賠償することなどが約されました。

Jの締約書は、「場排水中の「泥砂」沈殿後の上澄み水は「植物に何等の妨害をも及す」となし」という、国の機関、鉱山寮による試験

進的かつ画期的な事例を日本産業史に残していくと言わなければなりません。

半田銀山の損益と職工給与



半田銀山の損益と職工給与

旧半田銀山二階平坑口跡

かを示す史料のひとつに『造幣局百年史資料編』があります。五代は造幣局の事業についていましたので、私見ですが、弘成館の鉱山事業を組み立てるに当たって、造幣局の規程を参照した可能性が大きいと見られます。その『造幣局百年史 資料編』の中に、職工の給与が出ています。初任給が五円、経験を積むと三年後に一〇円、特段の技能のない限りは、そこまで頭打ちとなります。

他方、半田銀山には「人夫賃高低一覽表」という資料が残されていて、「坑夫」の場合、日当が「最上等 三九銭」「最下等 三四銭」「平均 三八銭」と記録されています。平均の日当を月に二五日働くとして月額計算すると、九円五〇銭になります。「」の金額は造幣局の職工賃金とほぼ同じ水準です。

「」のようにして、半田銀山は造幣局職工並みの賃金をもって、多数の雇用を岩代園に創出していました。（次号に続く）

休止鉱山を入手した場合、採鉱には初期投資が必要です。半田銀山の場合、機械工場建設費・設置機械代金・鉄道敷設費等の外に田地汚染防止のため「溜井」築造工事が必要でした。半田銀山の経営資料が「自明治七年至同二十年損益計算表」(『五代友厚伝記資料』第三巻、史料六九)として残っています。そこには、通常経費以外に「二十五万七千円」の初期投資を要したと注が付されています。この初期投資を除外しても、当初の六年間は経費倒れの赤

かを示す史料のひとつに『造幣局百年史資料編』があります。五代は造幣局の事業についていましたので、私見ですが、弘成館の鉱山事業を組み立てるに当たって、造幣局の規程を参照した可能性が大きいと見られます。その『造幣局百年史 資料編』の中に、職工の給与が出ています。初任給が五円、経験を積むと三年後に一〇円、特段の技能のない限りは、そこまで頭打ちとなります。

他方、半田銀山には「人夫賃高低一覽表」という資料が残されていて、「坑夫」の場合、日当が「最上等 三九銭」「最下等 三四銭」「平均 三八銭」と記録されています。平均の日当を月に二五日働くとして月額計算すると、九円五〇銭になります。「」の金額は造幣局の職工賃金とほぼ同じ水準です。

「」のようにして、半田銀山は造幣局職工並みの賃金をもって、多数の雇用を岩代園に創出していました。（次号に続く）

結果が軸になつていて。この時代の試験結果が二十一世紀の現在でも科学的に有効なのかどうかは判然としませんが、少なくともその時代の科学的な知見に基づいて公害対策を講じたことは間違いないありません。この「締約書」は文書として残る本邦初の公害防止契約書だったのではないのでしょうか。

字で、毎年平均五千円ほどの損失が記録されています。黒字に転換するのは明治十三年（一八八〇）からで、明治十五年から十七年までの三年間に産出量も収益もピークを迎える。精製銀総量の平均は約一、四〇〇貫（五、二五〇キログラム）、収益の平均額は約一二六、八〇〇円でした。仮に現在価格換算を五千倍とすると、年間六億円ほどの利益が出ていたことになり、優良な鉱山だったことになります。

一の三年間の使用人夫総数（同史料六九）は五三五、三四六人、年間平均は一七八、四四八人です。これは延べ人数であると考えられますから、年間操業日三三〇日として一日当たりの従事者を計算すると五四〇人になります。また当該三年間の給与総額は一四八、七八五円、年平均は四九、六一五円です。年間給与総額を職工数で割ると、一人当たり平均年収になりますが、その金額は九一円です。これを用額賃金に直すと、七円六六銭です。

明治初期の職工の給与がどれほどであったかを示す史料のひとつに『造幣局百年史 資料編』があります。五代は造幣局の事業に関わっていましたので、私見ですが、弘成館の鉱山事業を組み立てるに当たって、造幣局の規程を参照した可能性が大きいと見られます。その『造幣局百年史 資料編』の中に、職工の給与が出ています。初任給が五円 経験を積むと三年後に一〇円、特段の技能のない限りは、そこで頭打ちとなります。

他方、半田銀山には「人夫賃高低一覧表」という資料が残されていて、「坑夫」の場合、田当が「最上等 三九銭」「最下等 三四銭」「平均 三八銭」と記録されています。平均の日当を月に「一五日働く」として月額計算すると、九円五〇銭になります。「この金額は造幣局の職工賃金とほぼ同じ水準です。

一のようにして、半田銀山は造幣局職工並みの賃金をもつて、多数の雇用を岩代園に創出していました。（次号に続く）

朝陽館 上海売捌き所 五代豊子の兄森山茂が協力

Dream 五代塾会員 (森山茂曾孫)

森山 治 (横浜在)

明治 11 年 11 月 20 日付けの郵便報知新聞に掲載された短信に、五代友厚が上海に藍の売捌所（朝陽館の現地販売会社でしょうか）を設立し、営業強化のために森山茂と云う者を派遣したと記されていました。五代が輸出事業に直接目を向けていたことを示す興味深い記録でした。

この短信は当塾の川口建理事長が国立国会図書館デジタルコレクションを丹念に調べて見つけて下さったものです。

五代友厚の藍賣捌所擴張

〔11・20、郵便報知〕 五代友厚氏は先頃支

那上海へ藍賣捌所を開設されしより、月々の売高二万円余の巨額に至るも、尚此位の事にては物足らずと、一層盛大にする目的にて、此程其社員森山茂なる者を派し、更に売捌方の仕法を設けらるゝとの事。

この記事に出てくる森山茂は五代友厚の妻・豊子の実兄ですが、友厚の親友であつた森山家では伝えられています。その略歴については既に五代塾新聞に掲載頂きましたが改めて人名辞典等に記載されている内容を参考にして簡単に紹介させて頂きます。

茂は大和の出身で、儒学家・萱野恒次（扇鳳）

の長男として天保 12 年（1841）に生まれました。幕末期には尊王攘夷の志を持ち文久元年（1861）菅沼一平と変名して京坂にて国事に奔走する中で、儒学者（国学者）の森山履道軒（藤次郎）に師事し森山家を継ぐために養子となりました。文久 3 年の天誅組（天忠組）に加わっていたとの記録もありますが、奈良新聞社の竹村順弘記者に天誅組の研究団体で調べて頂いたところでは菅沼一平の名前は見つかりませんでした。多くの人が複数の変名を使っていました。森山姓を名乗つたのも変名を兼ねていたと当家では伝えています。

当塾會野豪夫顧問の推理では、萱野茂の変名菅沼一平には次のような法則があてはめられるそうです。萱野は菅沼（すがぬま姓は萱沼とも書く）、野→沼、茂→一平。このことで、萱野茂と変名菅沼一平は同一人物と殆ど確信できる、と。どなたか菅沼一平の名前に心当たりや、文久元年の国事の意味について「存じの方はお知らせ願います。

茂は明治 2 年より新政府の兵庫県裁判所（県庁）で伊藤博文のもとで働き、大阪の五代友厚と親交を結ぶようになりました。翌年に友厚は茂の妹豊子と結婚します。茂は現在の外務省に移り困難な朝鮮外交問題に携わり、後の日韓併合に繋がる日朝修好条規（江華島条約）の締結が整つたのを機に、明治 10 年退官しました。その後、12 年元老院議官、23 年富山県令、27 年から大正 8 年に亡くなるまで勅選貴族院議員を 25 年間勤めました。

茂はもっぱら外交・政治の仕事に携わっていましたと思つていましたがこの短信を見て、無冠の一年余りの時期に友厚と共に実業の世界で活動していましたことを知りました。

明治 10 年前後、茂の子供、愛子*と松之助**は五代家に預けられ豊子に養育されていましたと聞いておりますので、その背景の一つとして茂が上海へ頻繁に赴く多忙な時を過ぎていてのではないかと納得しました。

*（愛子）日本歯科医学会の祖・高山紀齋の妻 **（松之助）明治後期から昭和初期にかけての建築家、台湾・日本に作品が現存）

また茂が富山県令（勅撰知事）を務めている時、地場産業の一つである『井波紬』の生産を農家の副業として奨励し農民の収入増を図つたそうです。『井波紬』は現在では廃れてしまつたようですが、大正期に最盛期を迎えたと『染織事典』に著されていますので、当時の産業発展に寄与したことが伺われます。この様な施策を打ちだせたのも五代と共に活動した間に培われた知見によるものではないかと推察します。

ふるさと納税で田中光敏監督の映画制作を応援しませんか!!

②「北の流水」（仮題）

1950 年代に森林伐採で砂漠化した荒れ地に（浦河町、様似町、えりも町、広尾町）地元漁師らが木を植え続け、豊かな森と海をよみがえらせた史実。日本人の魂やあるべき姿を未来へ伝承することをテーマにした映画。年内に企画準備・クラウドファンディングを目標。

■ふるさと納税は「寄付金の使い道」を選ぶことができます。サイト内には「映画制作事業」が設定され、これを選べば、田中監督の映画製作を直接応援することができます。申込方法→各市町の HP、又はふるさと納税の各サイトが準備されています。右の各 QR はその一例として楽天 QR を掲載しました。



森山 茂 明治 20 年頃?

この略歴からもお分かり通り明治 11 年前後の活動が空白になっています。

（森山茂夫妻の墓は東京青山にあります）

編集後記

今年もコロナの話題が中心となりそううんざりする。第 8 波突入で感染者、死者数が過去最高とマスク密は煽る。予防注射も打ち、基本的な感染対策はしっかりしているのにと思うのだが？ また専門家の説明する理屈も辻褄が合わなくなっている気がする。一方、観光を含む人流は経済との兼ね合いという理由で、最近では容認発言一色だ。何が何だかさっぱりわからない。政府、医療専門家、マスク密はそれぞれの自利のためにのみ動いているような気がする。情報は正しく・バランスよく発信してほしいものだ。どうするニッポン！

今年もよろしくお願ひします。（川口建記）

連絡先：川口建

Tel : 080-4497-5688

HPQR →
Email : gogoken12345@gmail.com